

◎ 山

「この話を読んでみて、おかしいなあ、おもしろいお話だなあ、と思うところ、何番かな。どこが一番おかしいかな。あなたは。

これ、ずうつとこう読んでみて、おかしいなあ、おもしろいお話だなあ、と思うところ、何番かな。どこが一番おかしいかな。あなたは。

第一時板書事項

○ 余韻

家でもう番を読んでみよう。

○ 六番

六番。これ、初めて樂隊をやつて聞かせたところ。(こがどつてもおかしいところだね。(6を黄チヨークで〇をする。◎になる。)

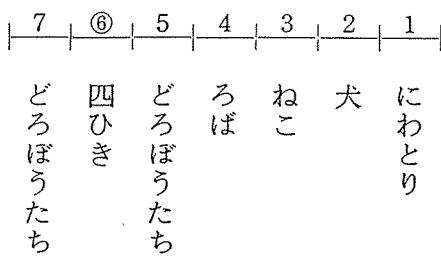
あしたは、ここをやります。ここをお勉強したら、とってもおかしい話だなあ、おもしろいなあということになりますよ。あしたも、しっかりお勉強してみましょうね。時間があるから、もう一ぺん七人で読んでもらいます。あなたが一番、次はあなた二、次、三、四、五、あなたが六、そして、あなたが七と、あなたまでね。さ、それじゃ読んで下さい。

七 よ む

七人で本文を読む

はい、本を置いて下さい。それじゃ、今日家に帰ったら、しっかりと考え、考え、読んできて下さいね。

静かにおじぎされる



ブレーメンの

がくたい

にわとり

七 よ む

普通は、四かくで板書した事項を読ませる。

(二)では、全文を順繰りに読ませている。四かくの後、教科書を仕舞わせない訳が(二)にあった)

短い文章の場合には、第一次指導と第二次指導を組み合させた授業をすることがあるが、照沼校長先生(茨城県大宮小学校)が、その傾向に注意喚起をされていました。第一次指導を丁寧に扱う意味が、この筆録を読むと、分かつて来る。

詩の場合には、一時間扱いにすることが多い。それで、二とくまで、第一次指導扱いで、三よむからを第二次指導扱いと考へる。

次時の予告

自宅学習の方向を話す。

* 終わりの挨拶も自然に……。

第二次指導(二時間目)

始業ブザー鳴る

さ、本を開いておいて下さい。それじゃ始めましょう

第二次指導

ね。

ゆっくりした足どりで御登壇。そして静かに一礼。

「ブレーメンのがくたい」のところを読んでみました

か。読んでみた人、手を挙げてみなさい。

全員挙手

はい。手をおろして下さい。おもしろかったでしょう。

きのう、あまりおもしろくないという手を挙げた人もあつたけれど、読んでみたらどうだつたか。おもしろかつたか。おもしろかつた人、手を挙げなさい。

昨日あまりおもしろくないと言つた子どもも、今日は全員挙手。

はい。よし、よし。また、七人で読んでもらいます。

今日はあなたからだね。その次はどこへいくの？ 二、三、四、五であなたね。そして、次、六、七とあなたま

たですね。
それじゃまた、大きい声で、ゆっくり読みましょうね。

一 よ む

く。昨日と同じように、七人で、全文をリレー式に読んでい

○ 盗んできた品物や何かを……

二 とく
はい。本を置いて下さい。今日の七人の人も、大変立派に読みましたよ。

さ、どろぼうたちは、あわてて逃げ出してしまったね。どうして逃げ出したの。あなたは。

○ 動物たちが大声でさけんだから

動物たちが楽隊をやつたのね。そしたら、どろぼうたちがびっくりして逃げ出してしまいました。動物たちは、どろぼうたちに、よい音楽を聞かせてやろうと思って、やつたのかな。あなたは。

○ びっくりさせてやろうと思つてやつた

びっくりさせてやろうと思つてやつたでしよう。そしたら、まんまとそれにひつかつてしまつた。それで、青くなつて逃げ出してしまつた。うまくいったな、こり

あ。

さ、その楽隊を聞くまでは、どろぼうたちは、何をやつておつたの。テーブルの上には何があつたか。あなたは。

○ 盗んできた品物や何かを……
345
○ 手引き
動物たちの思つたことがうまく当たりました。そこを書いてもらいます。何番かと自然な問い合わせている。

*前日と同じように挨拶され、「読んでみた人、手を挙げてみなさい」と、自宅学習の様子を確認するとともに、今日の学習への期待をもたせる話をする。

一 よ む

・第一時と同じ指示をされ、評価もしつかりとされる。

二 とく
○ おさらい

・第一次の六とくの復習をされる。
前時は、四匹の方から扱つたので、今回は、泥棒の方から扱つていて。これを裏からの扱いといい、特に、低学年は喜んでくれる。

・問い合わせの受け止め方、話の筋のつけ方を学びたい。

◎ 承接(前を受けて次に繋ぐ)

・その楽隊を聞くまでは、泥棒達は何をやつていたか、と話を展開させている。

・「酒盛りをやるところ」という答えを受けて、ユーモアをまじえた話を入れている。

三 よむ 四 かく

簡明な指示をして、視写に入る。

師弟共に視写に専念する。学級の雰囲気が澄んでくる時間である。約八分前後の時間であるが、これも、回数を重ねることにより、その効用が実感できる。

そう、盗んできた品物はわざに置きました。テーブルの上には、こう何か置いておつたでしようが。あなたは。

○ ごちそうを置いていました
ごちそうをどっさり並べて、手に何を持っておつたと思う？ あなたは。

○ ピストル

うん。……どうぼうだからな。……今から何をやるところだったの。

○ 酒盛りをやるところだった

酒盛りをやるところだった。そしたら手に何を持っておつたの。うん。みんなは酒盛りしたことはないから分からぬいか。

参考席、どっとわく。

○ コップやなに

コップやさかずきを持つておつたじゃないか。そして、こうやろうとしたとき、大変な楽隊。さあ、どうぼうたちは、何かお話しておつたろう。何を話しておつたの。あなたは。

○ 盗んできた品物をじまんしていた

どうだ、こんな立派なのを盗んできたんだぞ。君のよ

ろばの上に犬、犬の
「どうぼうたちを、びつ
くりさせてやろう。」

四 かく

子どもたち一齊に書き始める。師も板書。

三 よ む

り、ぼくはこんなに良い物をやつてきたんだよ。なんて、自慢話をしていたときに、大変なものが聞えてきたものだから、逃げ出してしまったのね。

動物たちが、びっくりさせてやろうと思つてやつたことが、うまくあたりました。そのところを書いてもらひますが、どこに書いているかわかるか。何番か。

六番です、と勝手に言う子あり。

ちゃんと手を挙げて言いなさい。

○ 六番です

六番のところ、みんな書くのですよ。体をまっすぐにして書きなさいね。さ、すぐに始めなさい。

板書しているときに、雑念が起ると誤字・脱字等が発生する。その後の授業にも悪影響が出る。教師自身の修養が板書に出てくる。自分の体調を測るパメーターにもなる。(飲み過ぎ注意)

終わった後、机間指導をしたり、

授業後にノートを集めたりして児童の実態を把握することも大事である。漢字を仮名に変換して視写している子もいたりするものである。(ノートは成長記録だ)最後まで書き切ることを要求しない。その子の実力で、できるところまで精一杯書くということが大事である。三ヶ月もすればみんなと同じように書けるようになつてくる。根気よく続けることである。